

練馬区在宅療養推進事業

119あんしんシート効果検証アンケート調査結果

令和8年10月
練馬区地域医療課

目次

調査概要・・	2
調査結果概要・考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
調査結果詳細・・	9

「119あんしんシート」とは

救急車を呼んだときに、受け入れ先の病院が必要とする情報を事前に書いておくシート。

令和6年度から、区内医療機関、介護保険事業所、地域包括支援センター等で配布している。



調査概要

調査目的

「119あんしんシート」等の利用・活用状況や評価、課題等を把握し、今後の普及・活用および運用改善に向けた検討の基礎資料とすることを目的とする。

救急隊

調査対象：区内消防署（練馬・光が丘・石神井）救急隊 35隊

有効回答：48件

調査方法：書面アンケート調査

主な調査項目：

救急現場での119あんしんシートの確認状況、確認場所、付属マグネットの使用状況・有用性、シートの見やすさ・情報量、利用促進に向けた改善点 等

調査期間：令和8年7月15日（水）
～8月12日（水）

医療・介護等専門職

調査対象：区内病院、診療所、薬局、訪問看護事業所、居宅介護支援事業所、老人保健施設など在宅療養に係る事業所 合計1070か所

有効回答：253人

調査方法：Webアンケート調査

主な調査項目：

患者・利用者へのシートの勧奨状況、勧奨後の反応、シートの保管状況、付属マグネット・記載情報の有用性、ACP・緊急時の備えの啓発、利用促進に向けた改善点 等

調査期間：令和8年7月21日（火）
～8月20日（木）

区民

調査対象：第1回在宅療養講演会参加者 119人

有効回答：93人

調査方法：書面およびWebアンケート調査

主な調査項目：

シートの記入経験、記入時の状況、記入につながるきっかけ 等

調査期間：令和8年6月6日（土）
～7月23日（木）

- ※ 集計にあたっては、各設問の無回答を除く有効回答者数を基数（n）として構成比を算出した。
- ※ 複数回答設問については、回答割合の合計が100%を超える場合がある。
- ※ 構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

調査結果概要・考察

回答属性

「救急隊」「医療・介護専門職」「区民」が回答

救急隊

n=48

回答者数

48 件

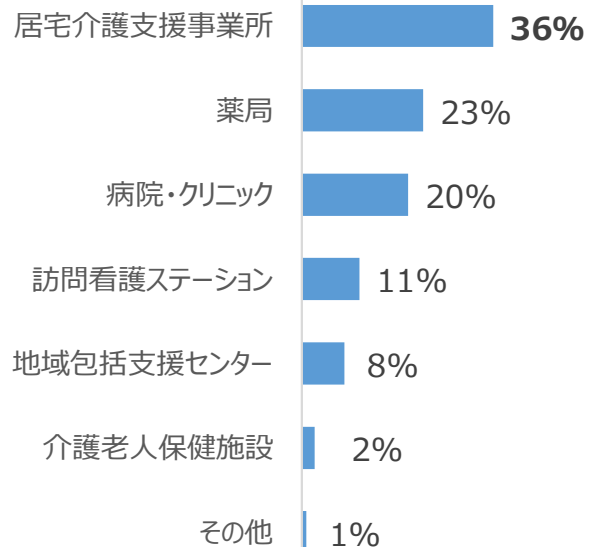
(内訳)

練馬消防署 : 12隊
光が丘消防署 : 7隊
石神井消防署 : 16隊
計35隊

医療・介護

n=253

所属事業所

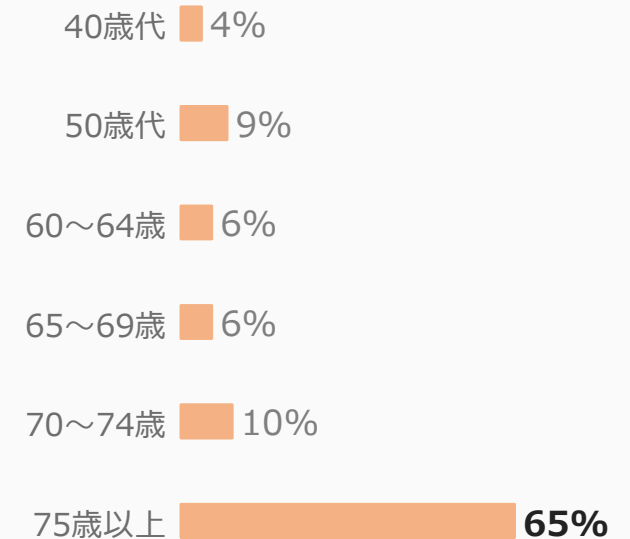


居宅介護支援事業所が最多
(36%)

区民

n=93

年齢層



75歳以上が最多 (65%)

シートとの接点・利用状況

消防・医療介護の現場ではシートに対して一定の接点がみられる一方、区民ではシートの記入経験がある人は約2割にとどまる。

救急隊

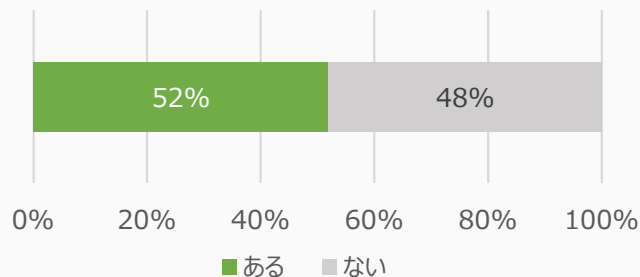
n=48

救急現場での確認経験

Q.救急現場で119あんしんシートを見たことはありますか。

52%

救急現場で119あんしんシートを見たことがある



医療・介護

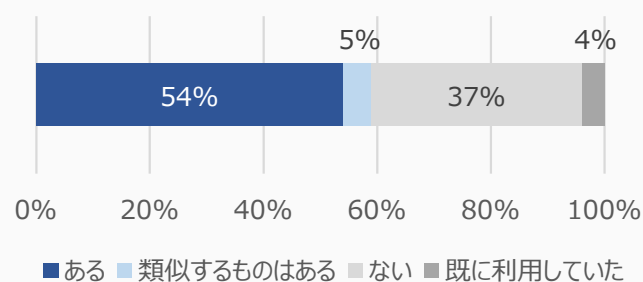
n=253

患者・利用者への勧奨経験

Q.「119あんしんシート・“もしも…”を考えるきっかけシート」の利用を患者・利用者に勧めたことはありますか。

54%

患者・利用者にシートを勧めたことがある



区民

n=82

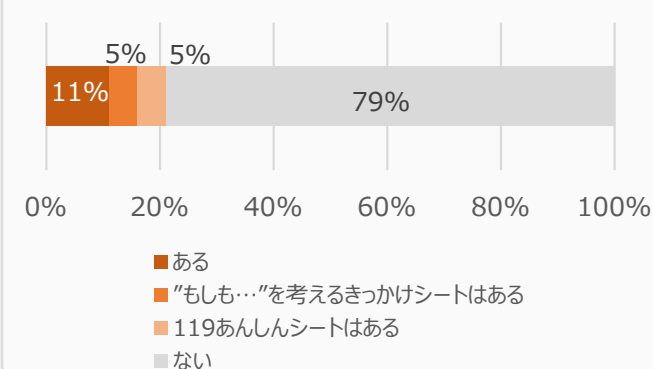
※区民は無回答11人を除く

シートの記入経験

Q. “もしも…”を考えるきっかけシートおよび119あんしんシートを書いたことはありますか。

21%

両方またはいずれか一方を記入したことがある



※ 対象者ごとに質問内容が異なるため、3つの割合を直接比較するものではない。

シート・付属マグネットの有用性は概ね高く評価

消防（救急隊）、医療・介護従事者の評価から、シートの基本的な考え方や記載情報は概ね肯定的に受け止められている。

救急隊

100%

付属マグネット

「役立つ／役立つ部分
もありそう」

91%

情報の見やすさ

「見やすい」

97%

情報量

「適切／おおむね適切」

救急現場での情報確認を支えるツールとして、
見やすさ・情報量・マグネットの有用性はいずれも高い評価

医療・介護

92%

付属マグネット

「役立つ／役立つ部分も
ありそう」

96%

シート記載情報

緊急時に「役立つ／
役立つ部分もある」

緊急時の情報提供・確認において、
シートの記載情報と付属マグネットの有用性を高く評価

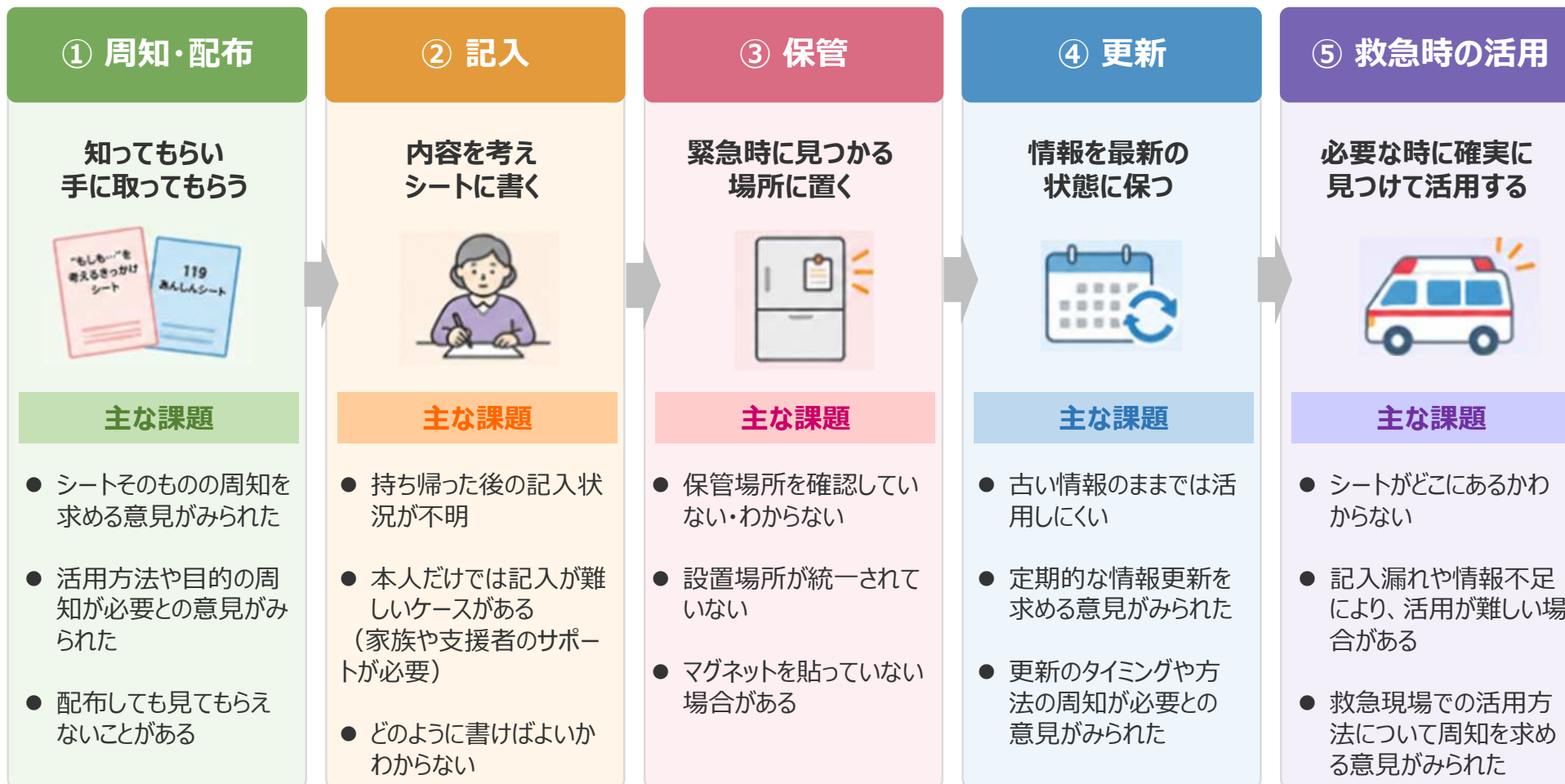
90%

医療・介護従事者が「シートの配布はACPや緊急時の備えの啓発につながると思う」と回答

シート自体は概ね肯定的に評価されており、今後は、記入・保管・更新・救急時の活用までをつなぐ「運用」の改善が重要

課題は「配布後」の運用

シート自体は概ね肯定的に評価されている一方、調査結果からは、配布後の記入・保管・更新・救急時の活用に至る各段階で課題がみられた。



シートそのものは概ね肯定的に評価されている一方、
周知・配布から記入・保管・更新・救急時の活用までを一連の流れとしてつなげる**運用の仕組みづくり**が課題

調査結果を踏まえた今後の取組の方向性(案)

調査結果を踏まえ、シートを「配る」だけでなく、実際に使える状態までつなげる仕組みづくりが重要。

① 知ってもらおう

知ってもらい
手に取ってもらう



主な取組の方向性

- 区報・SNS・ホームページ等による継続的な周知
- 講演会や地域のイベントでの啓発
- 医療・介護機関、地域包括支援センター等を通じた情報発信
- 実際に役立った事例の紹介

② 書いてもらおう

書き方の説明や記入
支援を行う



主な取組の方向性

- 講演会等での書き方説明
- ケアマネジャー・訪問看護師等による記入支援
- 本人・家族と一緒に考える機会の創出
- わかりやすい記入ガイドや動画の活用
- 個別の書き方相談・説明機会の設定

③ 使える状態を保つ

適切に保管し、
定期的に見直す



主な取組の方向性

- 保管場所のわかりやすさ・一定のルール化(例：冷蔵庫・玄関など)
- 定期的な情報の確認・更新を促す仕組みづくり
- 家族や支援者による確認・サポート体制の整理
- 更新のタイミングや方法の周知

④ 救急時に活用する

必要な時に確実に見つけて
活用できる仕組みをつくる



主な取組の方向性

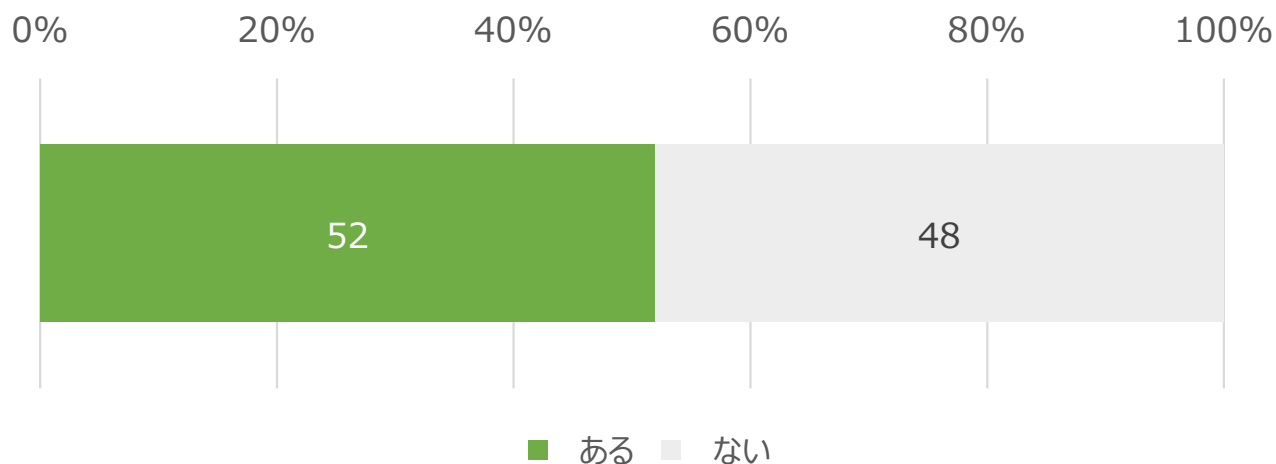
- 救急隊への継続的な周知
- シートの設置場所の周知(マグネットの活用促進など)
- 救急現場の意見を踏まえた記載項目の見直し
- 実際の活用状況・活用事例の継続的な把握

関係者が連携し、シートが区民の「もしも」の備えとして実際に役立つものとなるように
継続的に取り組んでいくことが重要

調査結果詳細

1-1.救急現場での119あんしんシートの確認経験

救急現場で119あんしんシートを見たことが「ある」と回答した救急隊は52%、「ない」は48%であった。

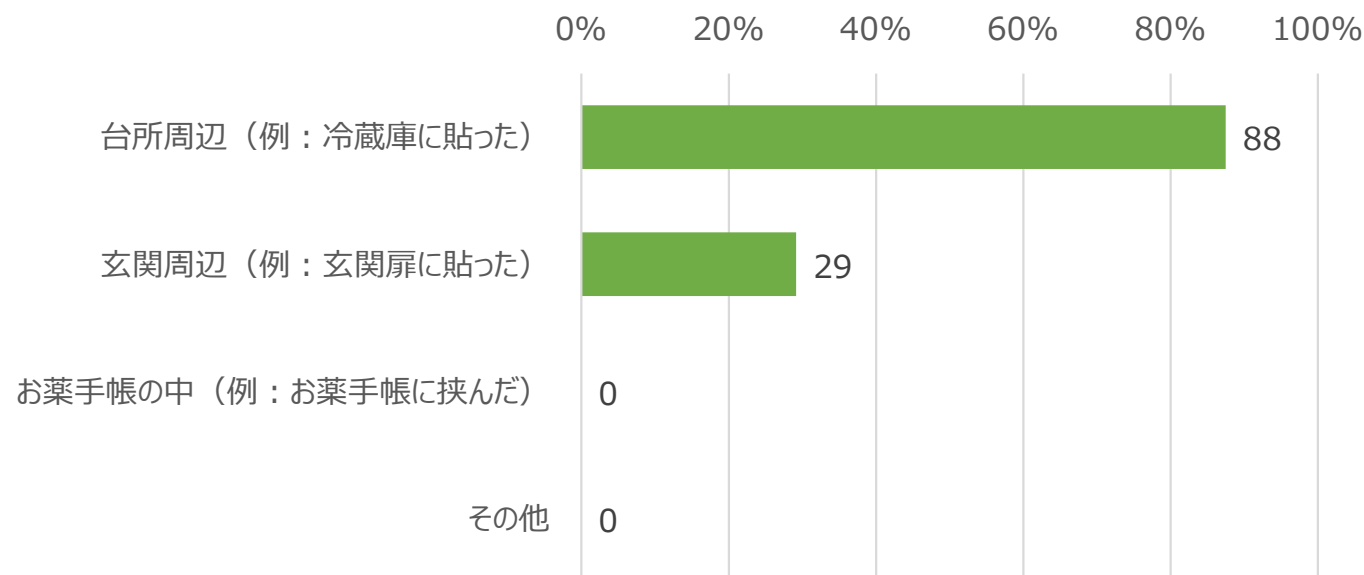


(n=48、単数回答)

救急現場での 119あんしんシートの確認経験	人数	%
ある	25	52
ない	23	48

1-2. 119あんしんシートの確認場所

救急現場で119あんしんシートを見たことがあり、本設問に回答した救急隊のうち、「台所周辺」で確認したとの回答が88%と最も多く、次いで「玄関周辺」が29%であった。



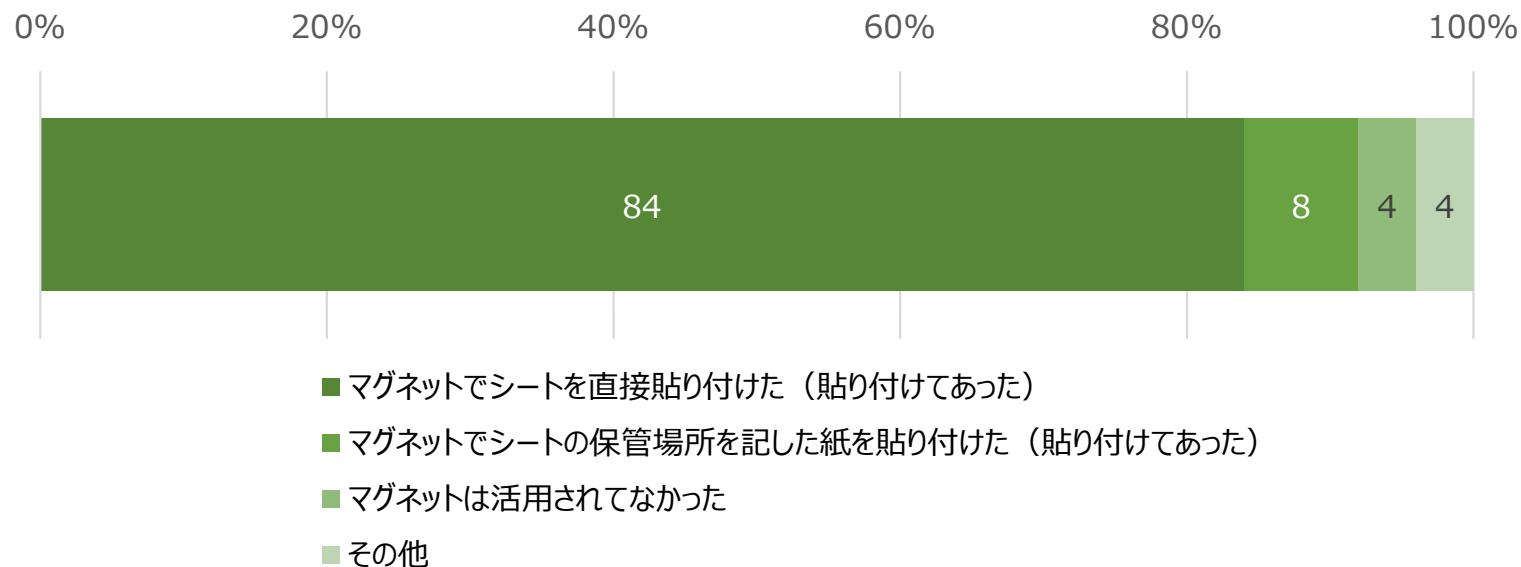
(n=24、複数回答)

119あんしんシートの確認場所	人数	%
台所周辺 (例: 冷蔵庫に貼った)	21	88
玄関周辺 (例: 玄関扉に貼った)	7	29
お薬手帳の中 (例: お薬手帳に挟んだ)	0	0
その他	0	0

※Q1で「ある」と回答した25人のうち、無回答1人を除いて集計

1-3. 付属マグネットの使用状況

救急現場で119あんしんシートを見たことがある救急隊のうち、84%が「マグネットでシートを直接貼り付けてあった」と回答した。



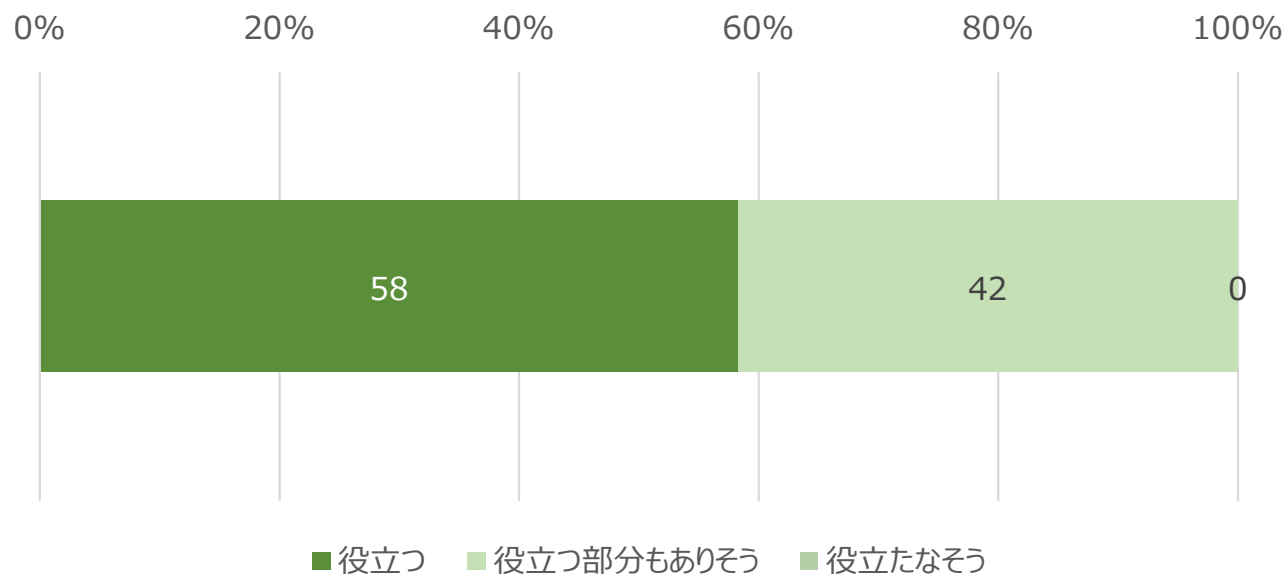
(n=25、単数回答)

付属マグネットの使用状況	人数	%
マグネットでシートを直接貼り付けた（貼り付けてあった）	21	84
マグネットでシートの保管場所を記した紙を貼り付けた（貼り付けてあった）	2	8
マグネットは活用されてなかった	1	4
その他	1	4

<その他の回答> プラスチック製のカプセルの中に入っていた。

1-4. 付属マグネットの有用性

付属マグネットが患者情報を見つけるのに「役立つ」58%、「役立つ部分もありそう」42%、「役立たなそう」との回答はなかった。



(n=48、単数回答)

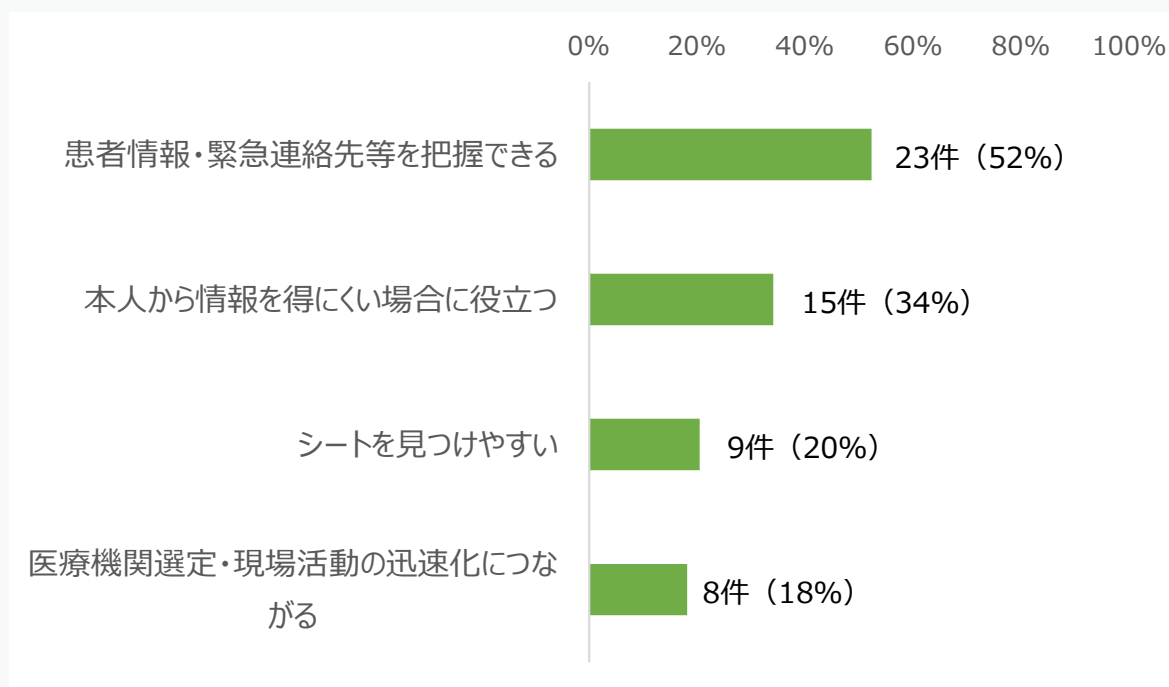
付属マグネットの有用性	人数	%
役立つ	28	58
役立つ部分もありそう	20	42
役立たなそう	0	0

1-5. 付属マグネットシートが役立つ点・改善点(自由記述)

患者情報や緊急連絡先等の把握に加え、独居や、認知症等により本人から情報を得にくい場面で役立つとの意見が多くみられた。また、シートの発見しやすさや救急活動の迅速化につながるとの意見がある一方、記入・更新、周知、掲示方法等の改善を求める意見も挙げられた。

付属マグネットシートが役立つ点

自由記述回答者 n=44



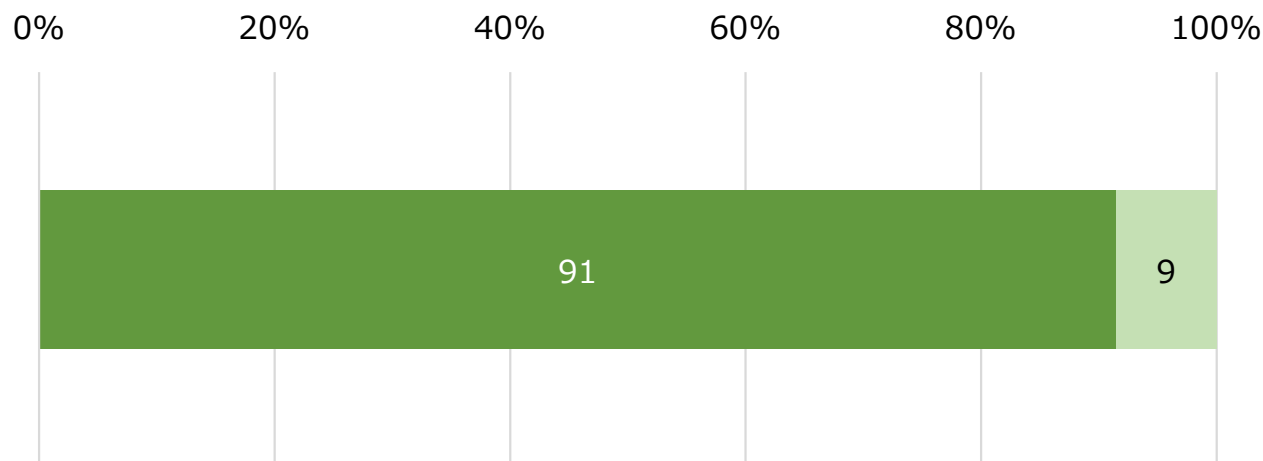
より役立つための改善意見

- 記入漏れ・空欄を減らす
- 記載情報を定期的に更新する
- シートの存在・有用性を周知する
- より見つけやすい掲示方法を工夫する
- 記載項目・表現を見直す

※自由記述44件を内容に応じて分類・集計した。1人の回答に複数の内容が含まれる場合は、それぞれの項目に重複して計上している。

1-7.119あんしんシート情報の見やすさ

119あんしんシートの情報について、「見やすい」との回答が91%を占め、「見にくい」は9%であった。「現状で問題ない」、または「特に改善意見はない」との回答が多くみられた一方、文字の大きさや色、レイアウト等の見やすさ・分かりやすさについて改善を求める意見も挙げられた。また、記載情報の充実や掲示・設置方法に関する意見もみられた。



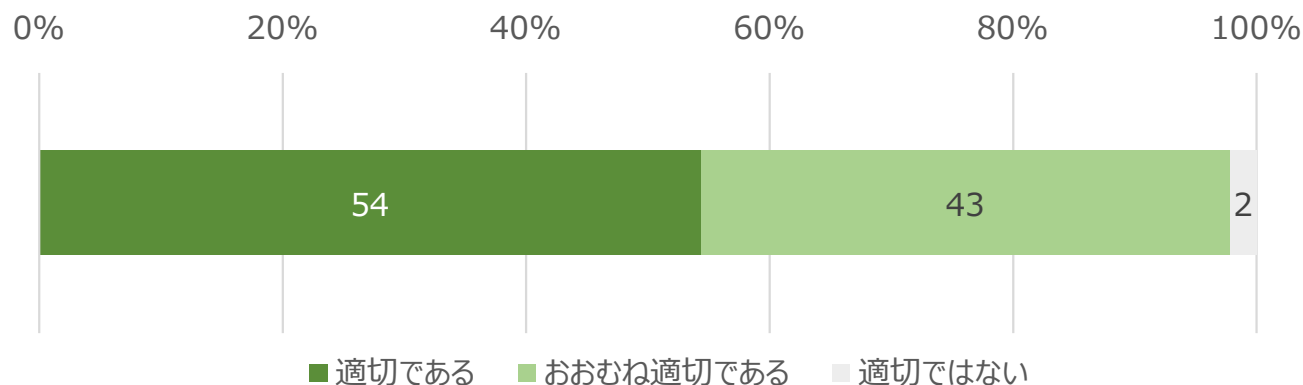
(n=47、単数回答)

情報の見やすさ	人数	%
見やすい	43	91
見にくい	4	9

※無回答1人を除いて集計。

1-9・1-10. 119あんしんシートの情報量に対する評価

119あんしんシートの情報量について、「適切である」「おおむね適切である」と回答した人が大半を占め、「適切ではない」は1人であった。



(n=46、単数回答)

情報量の適切さ	人数	%
適切である	25	54
おおむね適切である	20	43
適切ではない	1	2

※無回答2人を除いて集計。

「適切ではない」と回答した理由（1件）

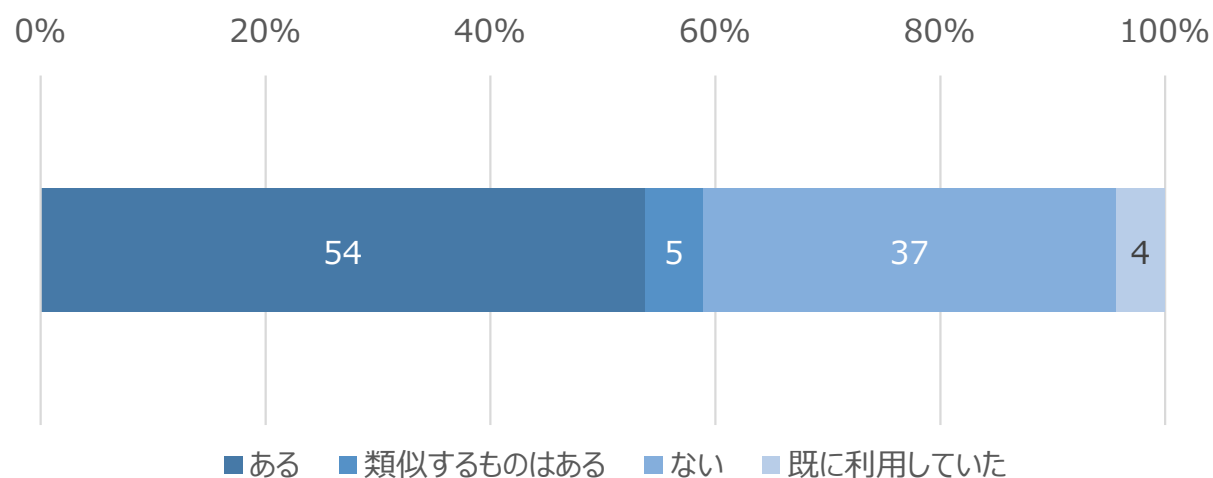
- 保険証やお薬手帳の保管場所欄があるが、救急隊は家の中の物を基本的に探せないなので、あまり意味はない

1-11. 119あんしんシートの利用促進に向けた工夫・改善点（救急隊）

具体的な意見として、「シートの普及・周知や配布機会の拡大」に加え、「関係職種による記入支援」、「設置場所の統一」、「記載情報の定期的な更新・フォロー」などを求める意見が挙げられた。

2-1.患者・利用者へのシートの勧奨経験

「119あんしんシート・“もしも…”を考えるきっかけシート」の利用を患者・利用者に勧めたことが「ある」と回答した人は54%であった。一方、「ない」は37%であった。

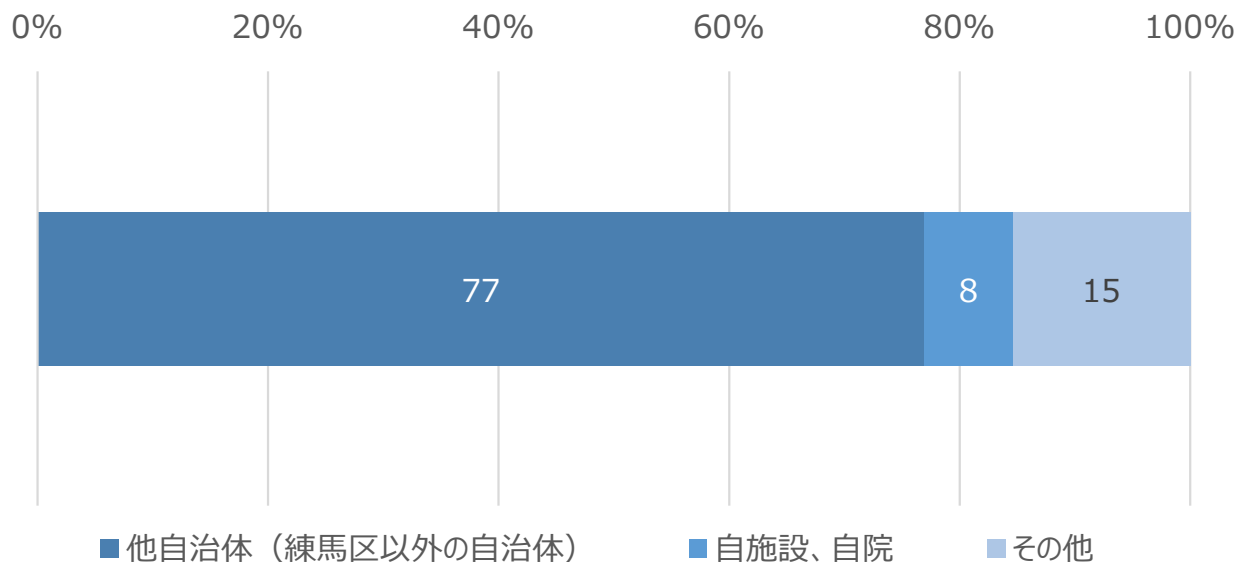


(n=253、単数回答)

患者・利用者へのシートの勧奨経験	人数	%
ある	136	54
類似するものはある	13	5
ない	93	37
既に利用していた	11	4

2-2.類似するシートの作成元

2-1で「類似するものはある」と回答した13人のうち、その作成元は「他自治体（練馬区以外の自治体）」が77%と最も多かった。



(n=13、単数回答)

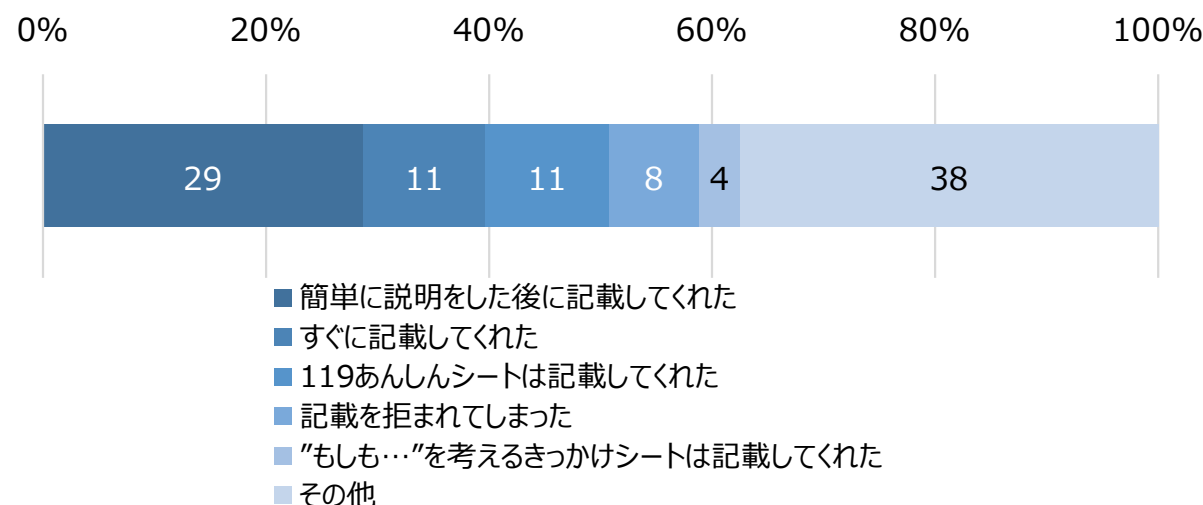
類似するシートの作成元	人数	%
他自治体（練馬区以外の自治体）	10	77
自施設、自院	1	8
その他	2	15

<その他の回答>

- ・どこのものか不明、ACP内容を考える冊子状のもの
- ・練馬区はつらっライフ手帳を参考にしてる

2-3.シートの利用を勧めた際の患者・利用者の反応

シートの利用を勧めた際の患者・利用者の反応として、「簡単に説明をした後に記載してくれた」が最も多く29%であった。一方、「その他」は38%を占め、その内容として、その場では記載せず持ち帰って後日記入するとしたケースや、配布後の記入状況が不明なケースなどがみられた。



(n=136、単数回答)

患者・利用者の反応	人数	%
簡単に説明をした後に記載してくれた	39	29
すぐに記載してくれた	15	11
119あんしんシートは記載してくれた	15	11
記載を拒まれてしまった	11	8
”もしも…”を考えるきっかけシートは記載してくれた	5	4
その他	51	38

2-3.患者・利用者の反応(「その他」の自由記述)

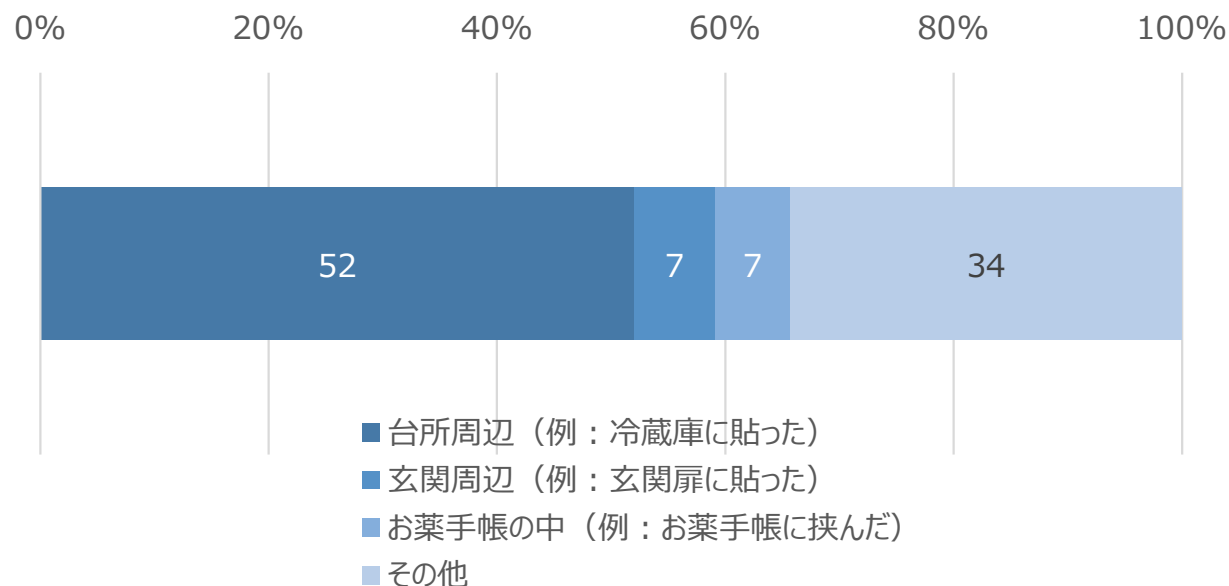
「その他」の回答では、その場では記載せず、自宅への持ち帰りや後日の記載となったケース、配布後の記載状況を確認していないケースが多くみられた。また、本人のみでの記載が難しく支援や代筆を行ったケースや、未記載のままとなっていたケースもみられた。

2-4.シートの記載・記載拒否に至った状況・理由(自由記述)

シートの記載につながったケースでは、緊急時への備えとして必要性を感じたことや、本人・家族が今後について考える機会となったことなどが挙げられた。一方、記載が難しかった・記載に至らなかったケースでは、「面倒」「忙しい」といった負担感のほか、本人だけでの記載が難しいことや、「もしものことは今考えられない」といった意見もみられた。

2-5.シートの保管場所

記載後のシートの保管場所としては、「台所周辺」が52%と最も多く、「玄関周辺」「お薬手帳の中」はそれぞれ7%であった。「その他」の回答では、保管場所を確認していない・分からないとの回答や、シートを利用・配布していないとの回答が多くみられた。



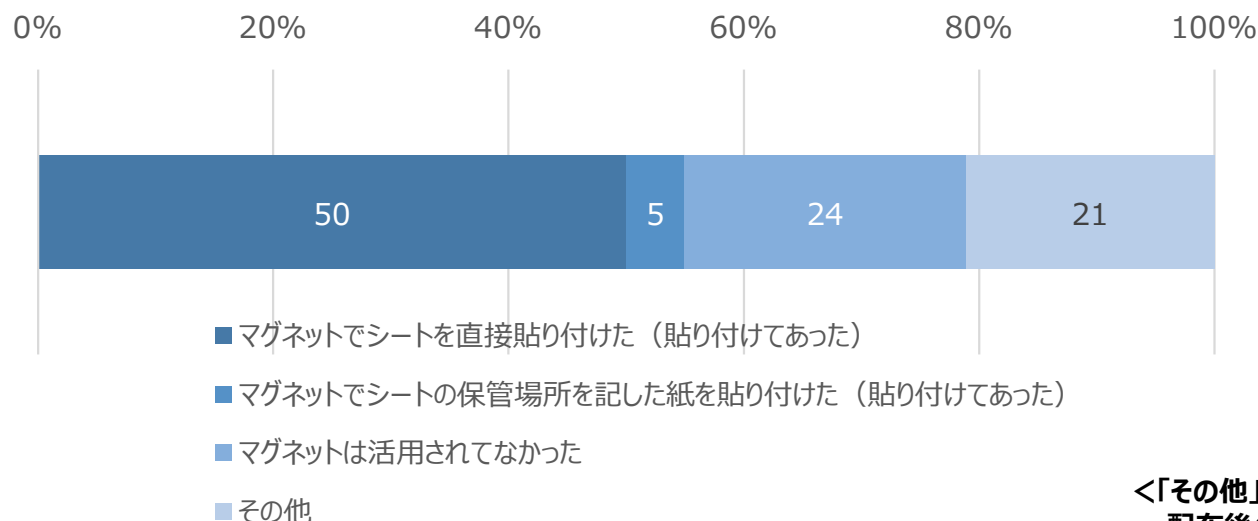
(n=242、単数回答)

シートの保管場所（医療介護）	人数	%
台所周辺（例：冷蔵庫に貼った）	126	52
玄関周辺（例：玄関扉に貼った）	17	7
お薬手帳の中（例：お薬手帳に挟んだ）	16	7
その他	83	34

※無回答11人を除いて集計。

2-6.付属マグネットの活用状況

保管時の付属マグネットの活用状況は、「マグネットでシートを直接貼り付けた（貼り付けてあった）」が50%と最も多かった。一方、「マグネットは活用されていなかった」は24%、「その他」は21%であった。「その他」では、シート配布後のマグネットの活用状況を確認していない・分からないとの回答や、シート・マグネット自体を利用していないとの回答が多くみられた。



(n=242、単数回答)

付属マグネットの活用状況	人数	%
マグネットでシートを直接貼り付けた（貼り付けてあった）	121	50
マグネットでシートの保管場所を記した紙を貼り付けた（貼り付けてあった）	12	5
マグネットは活用されてなかった	58	24
その他	51	21

※無回答11人を除いて集計。

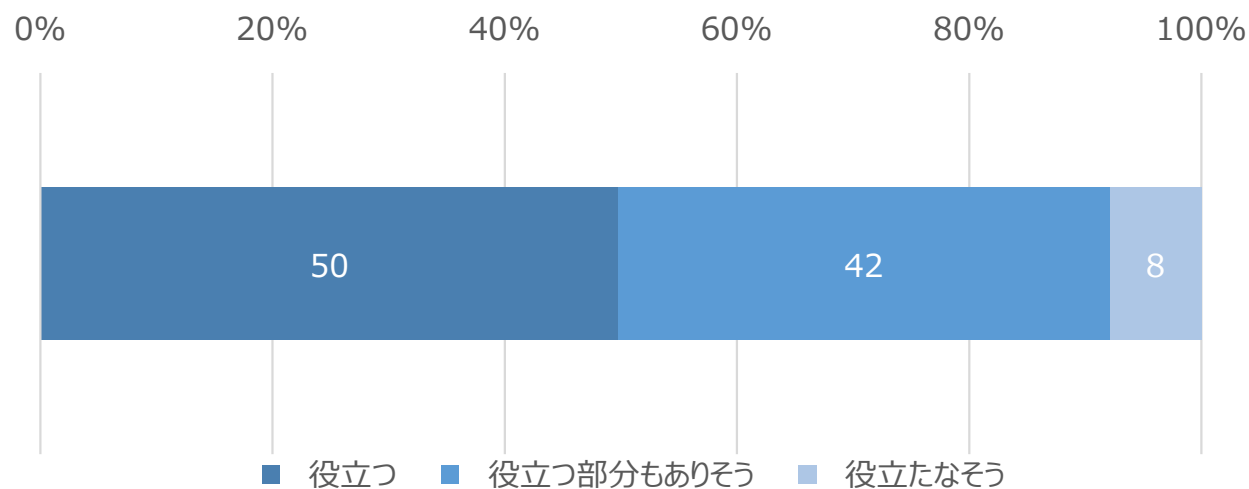
<「その他」の主な回答>

- **配布後の活用状況は未確認・不明**
「配布したのみで未確認」「薬局・外来で渡したため、その後の活用状況は不明」など
- **シート・マグネットを利用・配布していない**
「使用したことがない」「勧めていない」「未配布」など
- **シート・マグネットを見たことがない／確認したことがない**
「見たことがないのでわからない」「確認したことがない」など
- **その他**
「冷蔵庫にマグネットだけ貼ってあり、用紙は不明」「利用者によって異なる」など

※「その他」選択者51人のうち、自由記述50件を整理。

2-7. 付属マグネットの有用性

付属マグネットが緊急時の患者情報の提供に「役立つ」50%、「役立つ部分もありそう」42%、合わせて9割以上を占めた。一方、「役立たなそう」は8%であった。



(n=253、単数回答)

緊急時の付属マグネット有用性	人数	%
役立つ	126	50
役立つ部分もありそう	107	42
役立たなそう	20	8

2-8.付属マグネットが役立つ点・改善点(自由記述)

付属マグネットが役立つ点として、目につきやすくシートを見つけやすいことや、緊急時に必要な本人情報・医療情報・緊急連絡先等を確認しやすいことが多く挙げられた。また、本人や家族から情報を得にくい場合にも役立つとの意見がみられた。一方、より役立てるための工夫として、貼付場所の統一や情報の更新、シートや使用方法の周知等を求める意見も挙げられた。

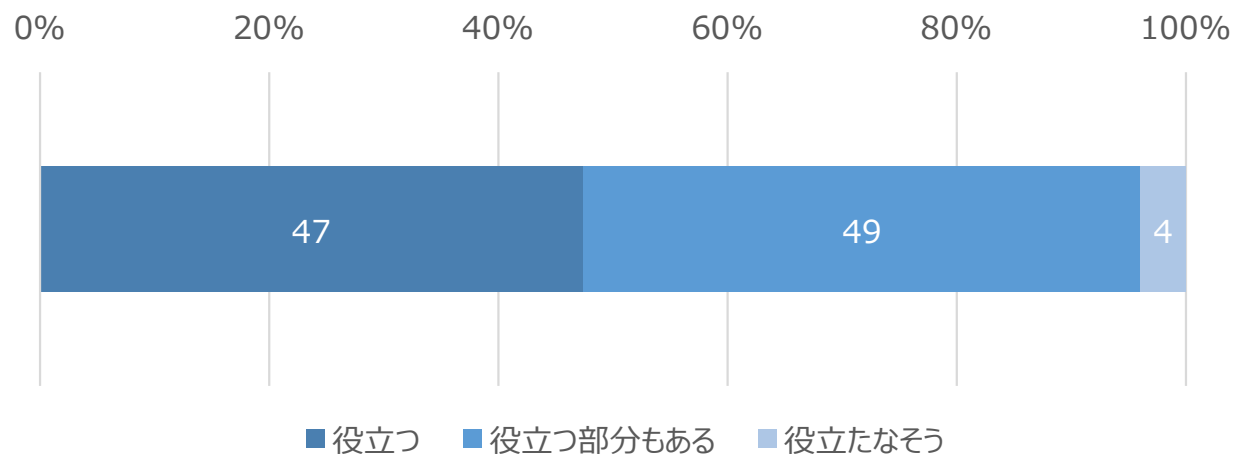
2-9.付属マグネットが役立たない点・改善点(自由記述)

付属マグネットが「役立たなそう」と回答した人からは、マグネットを貼れる場所が限られることや、シートの記入・使用方法について本人への説明や支援が必要なことなどが課題として挙げられた。

また、実際の活用場面が分かりにくい、医療・介護従事者による継続的な確認・支援が難しいといった意見もみられた。

2-10.緊急時におけるシート記載情報の有用性

シートに記載されている情報が、緊急時に「役立つ」47%、「役立つ部分もある」49%であった。

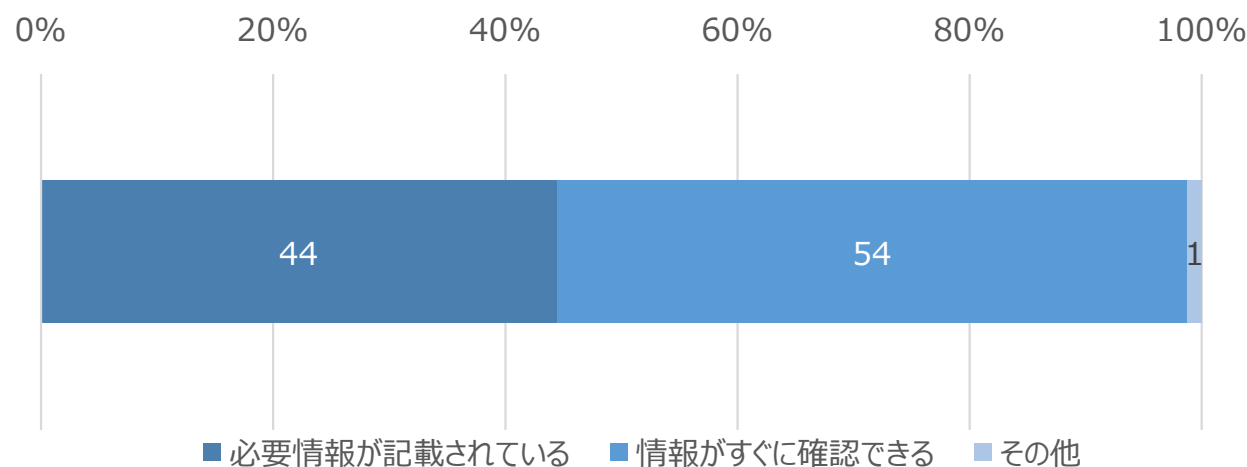


(n=253、単数回答)

記載情報の有用性	人数	%
役立つ	120	47
役立つ部分もある	123	49
役立たなそう	10	4

2-11.シート記載情報が緊急時に役立つ点

2-10でシート記載情報が緊急時に「役立つ」「役立つ部分もある」と回答した人に緊急時に役立つ点を聞いたところ、「情報がすぐに確認できる」が54%と最も多く、「必要情報が記載されている」が44%であった。



(n=243、単数回答)

記載情報が役立つ点	人数	%
必要情報が記載されている	108	44
情報がすぐに確認できる	132	54
その他	3	1

<その他の回答>

- ・話し合うきっかけになる。但し、書きっぱなしで更新されていない。手に取った人が役立てようと思って下さないと意味がない。
- ・関係機関がどこまで情報を共有されているのかが疑問
- ・情報が「今」のことであればよいが、更新されていない場合も考慮する必要がある。

2-12.シートに追加すると役立つ情報・記載内容への意見(自由記述)

シートに追加すると役立つ情報として、ケアマネジャーや訪問看護師、かかりつけ医等の連絡先、緊急連絡先、搬送希望病院などが挙げられた。

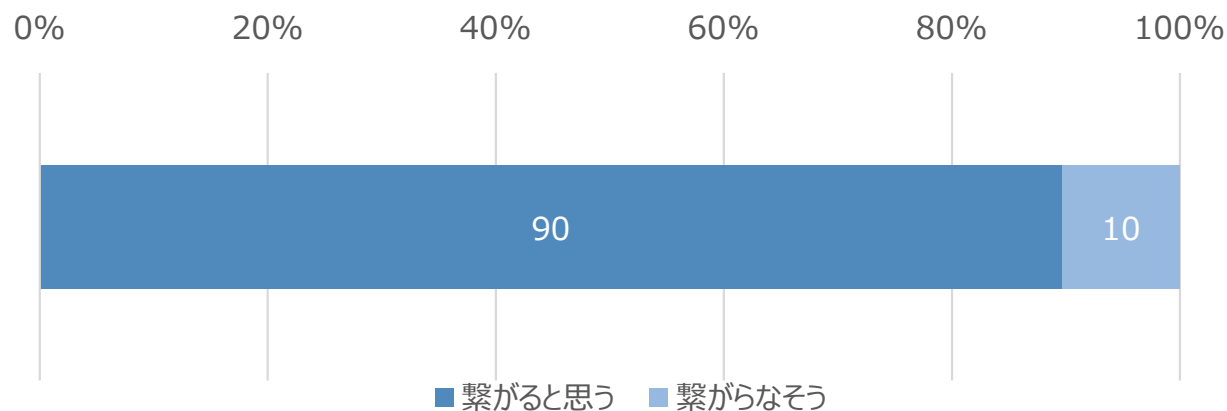
一方、現状の情報で十分であり、情報を増やしすぎると記入負担や分かりにくさにつながるとの意見もみられた。

2-13.シート記載情報が緊急時に役立たない点・改善点(自由記述)

2-10でシート記載情報が緊急時に「役立たなさそう」と回答した人に、役立たない点や、どうすれば役立つか尋ねたところ、緊急時にはシートを確認する余裕がないことや、シートの所在が分かりにくいこと、周知・活用が十分でないことなどが課題として挙げられた。また、緊急連絡先の記載や、119番通報時に伝える内容の明示、周知・配布機会の拡大などの改善意見もみられた。

2-14.シートの配布によるACP・緊急時の備えへの啓発

本シートの配布が、区民のACPや緊急時の備えの啓発に「繋がると思う」と90%が回答した。



(n=253、単数回答)

ACP・緊急時の備えの啓発につながるか	人数	%
繋がると思う	227	90
繋がらなそう	26	10

2-15. ACP・緊急時の備えの啓発につなげるための工夫(自由記述)

ACPや緊急時の備えの啓発につなげるためには、シートを配布するだけでなく、医療・介護関係者による説明や、講座・地域活動等を通じて考える機会を設けることが必要との意見がみられた。

また、継続的な情報発信や啓発する対象・タイミングの工夫、関係職種の役割分担・連携を求める意見も挙げられた。

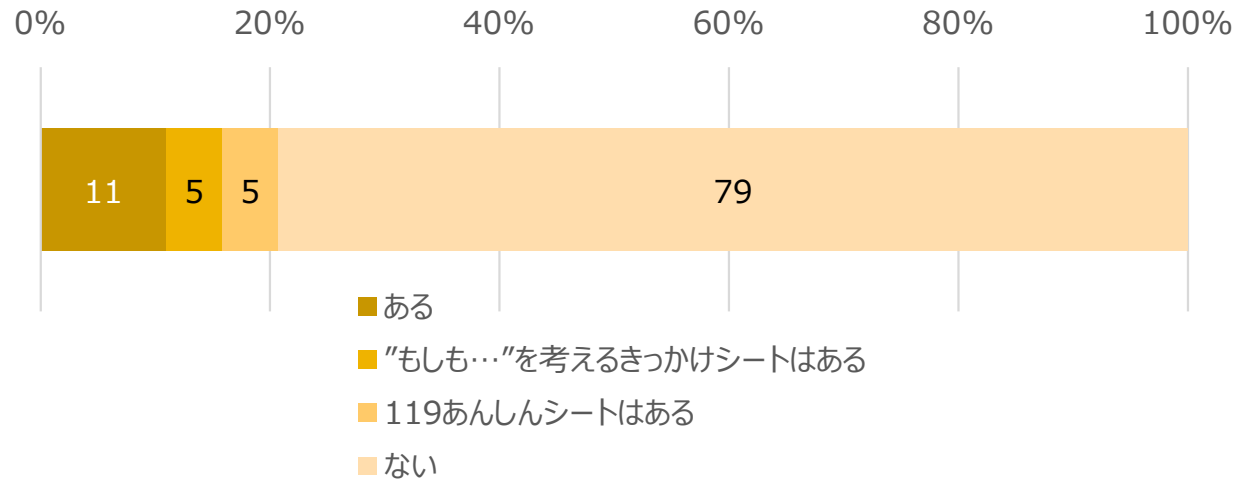
2-16. シートの利用促進に向けた工夫・改善点(自由記述)

シートの利用促進に向けて、周知・広報や配布機会の拡大に加え、医療・介護関係者等が本人と一緒に記入するなどの支援が必要との意見が多くみられた。また、シートの簡素化・小型化、デジタル化、情報更新のしやすさ、実際の活用事例の発信などを求める意見も挙げられた。

その他、シートの利用率そのものより、実際の救急現場で活用される仕組みや活用実績を確認することが重要との意見もみられた。

3-1.シートの記入経験

いずれのシートも書いたことが「ない」と回答した人が79%を占めた。
一方、両方またはいずれか一方のシートを書いたことがある人は21%であった。



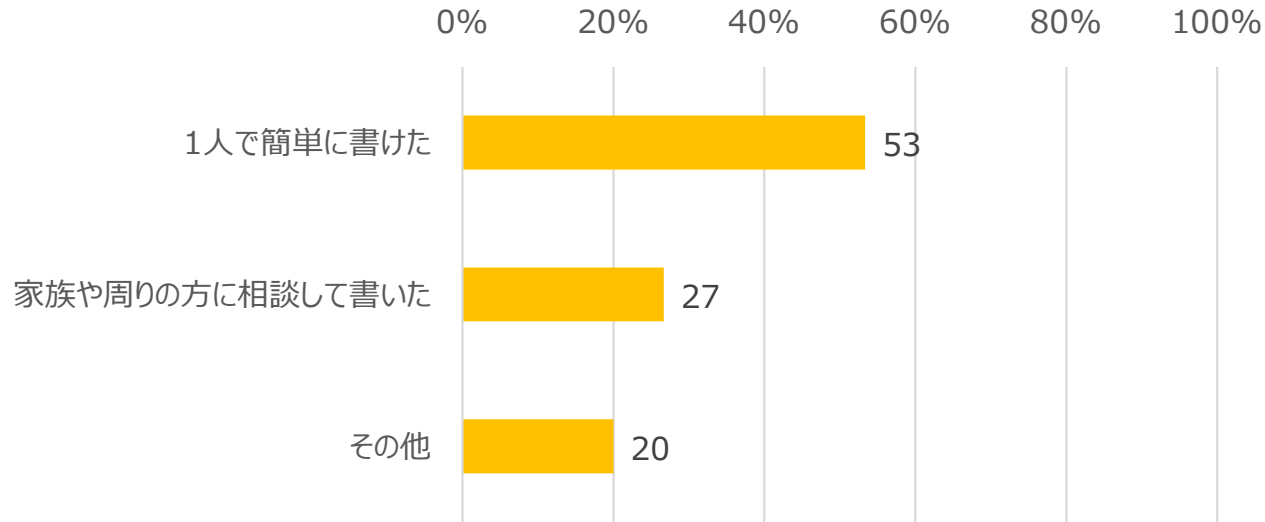
(n=82、単数回答)

"もしも..."を考えるきっかけシートおよび 119あんしんシートの記入経験	人数	%
ある	9	11
"もしも..."を考えるきっかけシートはある	4	5
119あんしんシートはある	4	5
ない	65	79

※無回答11人を除いて集計。

3-2.シートを記入した際の状況

3-1でシートを記入したことがある人に対して、書いてみてどうだったか尋ねたところ、「1人で簡単に書けた」が53%と最も多く、「家族や周りの方に相談して書いた」が27%であった。



(n=15、単数回答)

シートを記入した際の状況	人数	%
1人で簡単に書けた	8	53
家族や周りの方に相談して書いた	4	27
その他	3	20

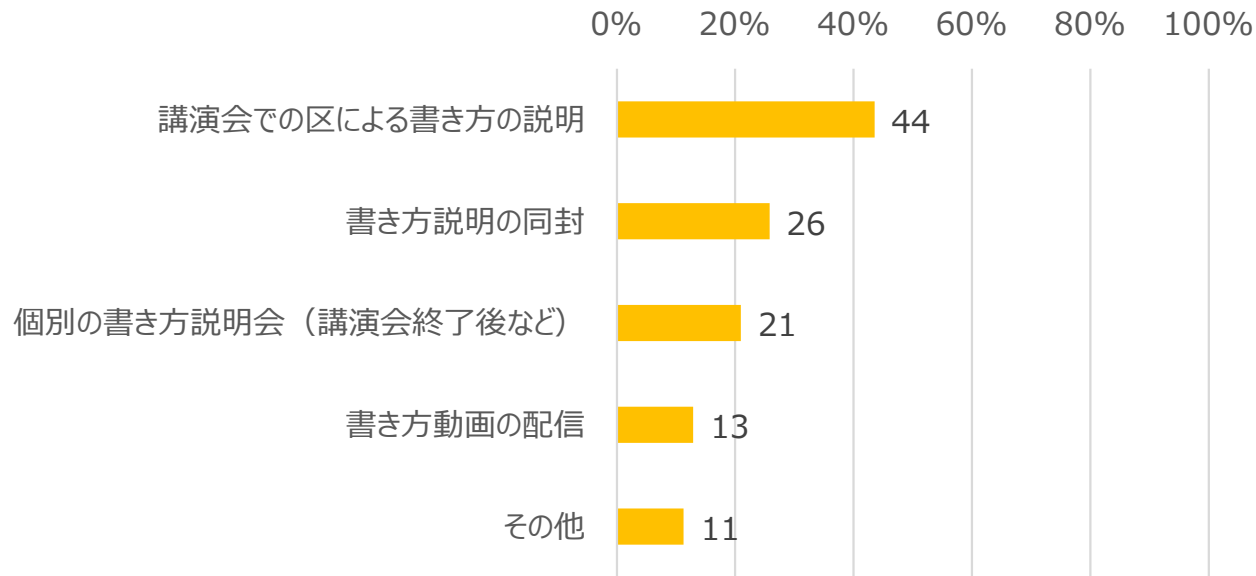
※無回答 2 人を除いて集計。

<その他のご意見>

- ・最後まで書けなかった
- ・実際に取り組むのはなかなか簡単でない
- ・以前、受けた講演等でシートをいただいた

3-3.シートの記入につながるきっかけ

シートの記入につながるきっかけとして、「講演会での区による書き方の説明」が44%と最も多かった。このほか、「書き方説明の同封」が26%、「個別の書き方説明会（講演会終了後など）」が21%であった。「その他」では、医療・介護関係者からの働きかけや、シートそのものの周知を求める意見などがみられた。



(n=62、複数回答)

シート記入につながるきっかけ	人数	%
講演会での区による書き方の説明	27	44
書き方説明の同封	16	26
個別の書き方説明会（講演会終了後など）	13	21
書き方動画の配信	8	13
その他	7	11

※無回答31人を除いて集計。

<その他の回答>

- ・ **身近な専門職・関係機関からの働きかけ**
ケアマネジャー、看護師、医療機関、地域包括支援センター、デイサービス等から説明・紹介する
- ・ **本人にとって必要性を感じるタイミングでの働きかけ**
通院が難しくなったときなど、今後の備えを意識する機会に説明する
- ・ **シートそのものの認知を広げる**
書き方の説明だけでなく、シートの存在を区報・SNS等も活用して広く周知する